

会議録

会 議 の 名 称	平成28年度第3回行田市子ども・子育て会議	
開 催 日 時	平成29年1月13日（金） 開会：午前10時 閉会：午後0時10分	
開 催 場 所	行田市役所203会議室	
出席者（委員）氏 名	馬橋正芳、清水与志雄、斉藤博美、吉野 豊、小山貴司、 桑原宏安、望月昌幸、馬場恵喜子、松島 弘、堀内由紀	
欠席者（委員）氏 名	木村千恵、横田康介、蓮沼義典、堀内 規、吉井和枝	
事 務 局	子ども未来課満井課長、上野子ども未来推進幹、芹澤主査、 須賀主査	
会 議 内 容	1 開会 2 議事 議題1 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員 について 議題2 行田市の学童保育室保育料について 3 閉会	
会 議 資 料	（資料名・概要等） ◎机上配布資料 次第 資料1 行田市子ども・子育て会議委員名簿 資料2 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員に ついて 資料3 学童保育室保育料について 資料4 学童保育室に関するアンケート結果	
そ の 他 必 要 事 項	傍聴人1人	
会 議 録 の 確 定	確定年月日	主宰者記名押印
	平成 年 月 日	㊟

発言者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事務局 馬橋正芳会長 斉藤博美委員 望月昌幸委員 馬場恵喜子委員	1 開会（午後１時３０分） ○馬橋正芳会長より挨拶。 欠席者５名及び傍聴人１名の確認 2 議事 議題１ 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員について ○特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員に関する説明が事務局より行われた。 委員の皆様から意見をお聞きしたい。 資料の配布が遅いので早くしてもらいたい。定員を減らすということだが待機児童はいないのか。勤め先に近い保育所に希望が集中してしまっているのか。定員を減らすのは運営費補助金を上げるためということだが、その結果、保育料も上がるのではないか。定員を減らす若葉保育園が近くにあるのにこどものみらい保育園を新設するのはどうなのか。 資料の配布が前日なのはおかしい。運営費補助金が上がっても保育料は変わらない。あくまで所得によって保育料は決まる。固定費、先生の配置の関係から大人数のほうが単価下がるため、少人数のほうが運営費補助金の単価は高くなる。若葉保育園は今まで面積の基準を満たしていなかったということだが、行政は今まで何をしていたのか。県からの要請は１３０名ということだが、１２０名定員でも弾力運営すれば１３０名をまかなえるが１２０名定員にするように指導はしなかったのか。そうすれば運営費補助金の単価が上がる。 行田市は待機児童０名と把握している。入れるのに入らない人は待機児童に数えない。子ども・子育て支援事業計画では今後、定員に空きができることになっているが需要と供給のバランスはどうなるのか。定員が足りないのならばどうしたらいいのかを子ども・子育て会議で考えていかなければいけないのでは。 若葉保育園は人気があると聞いているが定員を減らして大丈夫なのか。保育所の新設は小さい子どもだけをじっくり見てもらいたいという要望があつてのことなのか。また、保護者としては定員より入園児を少なくし

	てしっかり見てもらいたいという考えもある。 それと仕事をしている方にとっては1日も早く4月入所の決定通知を出してもらいたいのでお願いしたい。
松島 弘委員	行田市には待機児童はいないということで理解した。定員の変更で補助金の単価が上がっても保育料が上がらないのもけっこうなことだ。
堀内由紀委員	わたしも保育料が変わるのかが疑問だった。定員が減ると保育士も減ってしまうのでは。保育士が減ってしまうと目が届きにくくなり危険性もでてくるのではないかな。
清水与志雄副会長	子ども・子育て支援事業計画では0～2歳の需要が減るのに新しく作るのはどうなのか。連携の行田保育園はかなり離れている。近くの保育所ではなく行田保育園に行くのは違うのではないかな。
事務局	また、2,3年前にもいっているが資料の配布が遅い。 保育料については、望月昌幸委員のおっしゃるとおり定員が減っても変わらない。運営費補助金と保育料は別物であり保護者の負担は変わらない。通わせたい保育所に入れないので空きのある保育所に通わせていない方がいるのは認識している。
清水与志雄副会長	若葉保育園は面積の要件のために定員を減らすのであって保育所の新設とは直接の関係はない。
事務局	この地域に保育のニーズがあるからこの場所に新設することになったのか。
事務局	法人が用地を探していく中でそこに落ち着いた。若葉保育園の定員減とは関連性はない。
斉藤博美委員	どこに設置するのがいいのかは市が大局的に指導すべきだ。
事務局	定員を減らさなければいけないことは若葉保育園と話し合いを続けてきた。
斉藤博美委員	若葉保育園の面積が変更になったのか。
事務局	建物の面積が減ったわけではない。
斉藤博美委員	若葉保育園への入園の人数は減っているがどうなのか。
事務局	若葉保育園に面積要件に合うよう入園児を130名にしていきたいと要請している。今回、定員を130名にして実態に合わせようということで提出させていただいた。
清水与志雄副会長	以前は150名で認可されていたが設置基準が変わったため定員を減らすという認識でよいかな。
事務局	はい。
馬橋正芳会長	定員を120名にするようアドバイスはしたのか。
事務局	積極的にはしていない。若葉保育園で検討して130名に落ち着いた。

望月昌幸委員	定員を130名とするのと定員120名で弾力運営するのとでは補助金の単価がちがう。アドバイスしたほうがいいのではないかな。以前は県で認可していたため定員の変更は難しかったが、制度改革で定員を市で決められるようになった。まず定員を120名として、問題が出たときに改めて130名に変えればよいのではないかな。子ども・子育て会議でこういった話があったと若葉保育園に伝えて欲しい。理事長先生が定員130名にこだわりたいのならば話は別だが。
松島 弘委員	定員130名なら156名まで預かれることを考えているのではないかな。
望月昌幸委員	弾力運営すれば定員の20%増まで可能だ。
馬場恵喜子委員	定員を少なくして20%増とするよりも定員を多くしてゆったりと預かって欲しいのが預けるほうの気持ちかなと思う。
事務局	若葉保育園と色々話し合いをしてきた中でこの数字に落ち着いた。定員120名でどうかという話は今後していきたい。
望月昌幸委員	需要と供給はどうなるのか。子ども・子育て支援事業計画では今後、希望者が定員を下回ることが予想されている。
事務局	子ども・子育て支援事業計画は実際とずれてきているのではと感じている。実際には0～2歳の希望者が高止まりのまま推移している。3歳以上は幼稚園に移る方もいてばらけるが、0～2歳の高い需要にこたえるためには小規模保育等を整備していく必要があると考えている。若葉保育園の定員減はあくまで施設の面積要件が原因である。
清水与志雄副会長	新しい保育所を作ることに若葉保育園から何か意見はないのかな。
事務局	若葉保育園から特に意見はない。
清水与志雄副会長	この地域の保育ニーズはどうなのか。3歳以上にはバスを出すから遠くの行田保育園に通うというのは保育所の趣旨と違うのではないかな。近くの保育所に通ったほうがいいのではないかな。
事務局	地域的な需給バランスが崩れることは考えられるが、行田市全体で考えると0～2歳の高い需要にこたえることは必要だ。自動車で送り迎えしている保護者も多い。自動車を持っていない方についても、行田保育園はバスの運用をしており全市の対応が出来る。
清水与志雄副会長	3,4歳になったら行田保育園に通うということか。
事務局	基本的にはそうだ。
清水与志雄副会長	近くに通うことを優先するべきではないかな。継続性の必要は分かるが、バスで街中まで行くから大丈夫というのは保育の趣旨に合わないのではないかな。
事務局	行田保育園は連携園だが必ずそこに行かなければいけないものではない

清水与志雄副会長	い。幼稚園へ行く方もいる。違うところに行くこともある。
望月昌幸委員	保護者の希望を尊重して欲しい。低年齢児が減ると保育士が余ってしまうのではないかな。
馬橋正芳会長 事務局	0歳児が他の保育所に移動してしまうのはかなりの痛手である。0歳児の補助金の単価は10万円を超えている。移動してしまうとその分収入がなくなる。3人だと45万減ってしまう。経営に直面するため、低年齢児の定員の確保はきちんとすべきだ。
馬橋正芳会長	園児の数が減ってしまっても保育士が余ってしまうことはないと思う。ぎりぎりの保育士で対応している保育所はない。今は保育士が不足しているのでいざというときに対応できなくなってしまう。
	保育所の4月入所の通知についてはどうか。
	現状では3月上旬に4月入所の通知を出させてもらっており、保護者の方にはご心配をおかけしている。
	委員の皆様の貴重な意見を基に「特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員について」、事務局においては、今後の手続きを進めて欲しい。
議題2 行田市学童保育室保育料について	
○行田市学童保育室保育料に関する説明が事務局より行われた。	
馬橋正芳会長 堀内由紀委員 松島 弘委員 馬橋正芳会長	委員の皆様から意見をお聞きしたい。
	値上げするのは年収800万くらいからがいいと思っていた。
	これでいいと思う。
	馬場恵喜子委員は。
	よろしいですか。
馬場恵喜子委員	はい。
望月昌幸委員	保育所の保育料も階層別なので、7,000円が高いかは別として、月20日と考えれば2,000円上がるのは仕方ないのかなと思う。予測では市の負担が1,100万円増える。これにより支援員の質が悪くなればまた別の問題が発生する。業務委託費の増額だとか、時給単価の設定とかもしたほうがいいと思う。量の問題として、学童の児童の枠について必要量と現実はどうなのか。保育所の園児が卒業すれば働く親も上がるわけだからその分枠が必要になる。質の問題として、前にも言ったが学童の児童は体が大きいのに平米数の基準が保育所よりも低い。
桑原宏安委員	とくにないです。
小山貴司委員	わたしも。

馬橋正芳会長 小山貴司委員 馬橋正芳会長	よろしいですか。 はい。 吉野 豊委員は。 よろしいですか。
吉野 豊委員 斉藤博美委員	はい。 熊谷市は保育料が5,000円だが、行田市はおやつ代を含めて9,500円である。少子化対策に一番にお金をかけるべきだ。保育料の低い羽生市に住むことにした方もいる。そんなに保育料に差があるなら熊谷市に住もうとなってしまう。多子世帯を軽減したといていたが、他の市は10年以上前からやっている。やるのがあたりまえで、今からアピールしても響かない。今回も、前回の意見が反映されていない。もともとの保育料が高い。前回勉強して欲しいといったが、どのように勉強したのかお聞きしたい。
清水与志雄副会長	市役所に来て人口の揭示をみるといつもマイナスになっている。子育て支援というのは学童の保育料だけみて議論してもどうしようもない。市議会議員には頑張ってほしいと思うが、なぜ小学校を統合しないのか。ひとつ統合すれば学童保育料を無料にするのは簡単ではないか。学童の保育料は本来無料であるものを払ってもらっているという発想でないといけない。効率のよい統廃合をして、適正な人員配置をしなければいけない。自治体そのものが破綻するというシミュレーションもある。
事務局	前は保育料を上げる階層をC10以上として25%がこれに該当した。今回は値上げをする階層をC11以上とし収入が800万円以上の世帯をめどとした。たかがひとつの階層だが、C10はボリュームゾーンなので値上げする世帯はかなり減った。できるだけ値上げする世帯を少なくした。
斉藤博美委員	負担ありきではない。階層がどうのこうのという問題ではない。熊谷市は一律5,000円だ。行田市は子育て環境NO1をうたっているがNO1のものはなにもない。学童の保育料も保育所の保育料もみんな高く、人口減少も止まっていない。どうしたら止まるのか子ども未来課が提案しないといけない。熊谷市は保育料が5,000円なのになぜ行田市は7,000円なのかを勉強してもらいたい。行田市は黒字で財政調整基金も持っている。思い切った政策を採らなければ人口減少は止まらない。どこかNO1を作ってもらいたい。
事務局 望月昌幸委員	いただいたご意見を参考に職務を遂行させていただきたい。 子ども子育て会議は意見徴収の場だがわれわれの意見はどうなるのか。どこかの委員会にかかるのか。

事務局	条例改正の際に議会や委員会で議論になる。そこでいただいたご意見を踏まえて説明していく。
望月昌幸委員	保育料を下げたいといっても採用されないこともありえるわけか。
事務局	皆さんの意見をできるだけ反映させていただきたいと考えている。
望月昌幸委員	賛成ばかりでなく反対の意見もあるのが当たり前だ。議会や委員会にも反対の意見があることを伝えてもらいたい。
清水与志雄副会長	議事録以外にも要望書を出すということをしてもいいのではないか。時間をかけてもう少しボリュームのある調査をしたらどうか。シンクタンクの役割もあるのではないか。提言書をまとめて議員の議案作りに役立ててもらいたい。
望月昌幸委員	意見を聞きましたで終わるのはどうか。
松島 弘委員	議会だよりを読むと、市議会議員の質問への回答とか議案への○×で終わっている。小学校を統廃合すればお金は生み出せる。
清水与志雄副会長	小学校を統廃合して、開いた学校を利用して学童保育のための学校はできないのか。教員資格がある人たちが支援員をして学童保育の理想の形を研究したらどうか。各地でやるのもいいがひとつにまとまってやるのもいいのではないか。そういう発想があってもいいと思う。
馬場恵喜子委員	市長や議員に子ども・子育て会議で話された内容に目を通していただきたい。色々な意見があってしかるべき。子ども・子育て会議はそういう場所であるのではないか。
馬橋正芳会長	委員の皆様には貴重な意見をいただいた。「行田市の学童保育室保育料について」は、色々な意見があるが、所得の低い世帯に特に配慮していくということなので、事務局においては、われわれの意見を反映していただいて今後の手続きを進めていただければと思う。
事務局	地域型保育の新設にあたり3月の終わりごろに次回の会議を開きたい
望月昌幸委員	年度末に開催する理由は何か。
事務局	建物が出来上がって基準を満たしていることを確認した後に子ども・子育て会議で意見を聴くことになっている。建物が基準を満たしていなければ会議で意見を聴くことができない。
斉藤博美委員	費用弁償で税金を使って皆さんの意見を聞いているのに全部決まってから会議を開くのはどうか。
清水与志雄副会長	作る前に意見を聴かなければ意味がないのではないか。だめという意見は意見として聞きますがそれでおしまいというのはどうなのか。
事務局	次回、そういった資料を用意して対応させていただく。

	○各委員の予定を確認し、次回開催の候補日の集約が行われた。 次回の会議は３月２７日の午後に開催する。 ３．閉会（午後１２時１０分）
--	--